

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201255		
法人名	医療法人社団 三草会		
事業所名	グループホームもえれのお家 アカンア館・ポブラ館		
所在地	札幌市東区伏古13条3丁目11-17		
自己評価作成日	平成22年10月31日	評価結果市町村受理日	平成23年2月10日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://77.system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201255&amp;SCD=320">http://77.system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201255&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成23年1月20日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域の協力医療機関と情報交換、連携を図りながら健康管理、病状管理、特変時の適切な対応に努めている。入院中から家族、医療機関、グループホーム職員との情報共有に努め、短期間の入院を目指し退院後も往診、訪問看護と協力連携の体制を整えグループホームの生活継続を支援している。

・利用者の生活リズムを考え本人のペースに添った柔軟な支援をしている。

・ホームの設備は家庭的で親しみやすく合理的な配慮をしている。採光、換気、温度調整も利用者に配慮している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の閑静な住宅街にある。建物は2階建て、内部は利用者の安全と快適さ、介護者の動線を考慮した理想的な造りになっている。母体は東区の伝統ある医療法人で、病院、老健施設等を運営し、特にグループホームは札幌市での草分け的な存在で、新旧合わせて多数経営しており、互いの連携関係には大きな相乗効果がみられる。当事業所にはデイサービスが併設され、利用者はアクティビティではデイに参加する等互いに協力しており、又系列の訪問看護ステーション利用により、24時間体制で医療との連携を図っている。管理者はじめ職員は、積極的に内外の研修に参加するなど日々研鑽し、質の高い介護を実践し、実習生の指導にもあたっている。利用者の表情は明るく穏やかである。家族とはクリスマス会や収穫祭の行事で懇親をはかり、運営推進会議には多数参加している。運営推進会議では、特に防災については回を重ねて話し合い、災害時緊急連絡網に近隣住民の協力を得るまでになっている。地域との交流では新聞「ふしこ便り」を発行し、町内に回覧して事業所の理解に繋げ、地域の集会では福祉と健康について話題を提供し、認知症サポーター養成講座に貢献するなど啓蒙的な役割を果たしている。地域の中でその人らしく安心して暮らすことのできる今後も期待できる事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果(アカシア館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で話し合っって作った理念で、地域の中でその人らしく生活できるよう、職員はそれぞれ努力している。	理念は事業所内の要所に額に入れて掲示し、理念に基づき地域の中で家庭的な雰囲気のもと、その人らしい生活が継続できるよう具体的ケアの実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、利用者の意思に添いながら花植えやゴミ拾い等に参加している。散歩中には日常的に挨拶を交わしている。	町内会行事や地域集會に参加し「ふしこ便り」を町内に回覧している。七夕祭りには子供達の訪問があり、収穫祭は地域の人々と共に祝う等日常的な交流がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々の認知症サポ-タ-養成講座に参加しお話しをさせてもらっている。運営推進会議では地域住民の代表者に対して、事業所や職員の役割が還元出来る場があれば役に立ちたいと伝えている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告し、意見・助言等があればそれを反映させ、サービス向上に努めている。	会議は定期的に行われ包括支援センター職員、地域代表、家族、職員が参加し記録している。運営内容、防災、避難訓練等について話し合い討議内容はサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市、区単位で定期的に管理者会議が開催され積極的に参加をしている。必要に応じて懇切丁寧に応じてくれる。	行政担当者とは常に連絡をとり情報交換をしている。市や区の管理者会議や研修会には積極的に出席し連携をはかっている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないことを全ての職員が認識している。利用者の自由な暮らしを支え、心理的圧迫感をもたないように、玄関に施錠しないケアに取り組んでいる。	職員採用時には研修を行い、「身体拘束ゼロへの手引き」「高齢者虐待について」のマニュアルを整備し身体拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず安全を確認しながら自由な雰囲気の生活を支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行ったり、介護の仕方をその都度話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している利用者があり関係者と話し合いながら支援している。職員の制度の理解が十分とはいえないため理解できるよう努めていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等の文章を読み上げるだけでなく、分かりやすい言葉に置き換える等十分な説明を行い疑問点を尋ね、理解・納得を図っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見、不満、苦情についてはその都度検討し、運営に反映させている。	日頃の対話で家族の意向を汲み取り、運営推進会議等での家族の意見は運営に反映させている。意見箱を設置し、外部への苦情申し込み機関については重要事項に明示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から運営に関して意見や提案を聞く機会を設けるには至っていない。	管理者は毎月のカンファレンスの中で職員の意見や提案を聞く機会があり職員の意見は運営に反映するよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ支援、勤務年数が一定以上の職員を対象に人事考課を活用し正職員への登用等職員各自がやりがい、向上心を持って働けるように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各自の経験、資格、希望に応じた研修に参加できるように努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ区にある同業者と定期的に事例検討会、勉強会を行っており、ネットワークづくりやサ - ビスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族・関係者から話しをよく聴き、職員間で話し合い情報を共有しながら信頼関係を構築する努力をしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対して困っている事、不安な事等を聴く機会を設け、職員間で情報を共有し関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの要望に耳を傾けながら、情報を検討し利用者にとってのより良い生活を送ることのできる支援を見極め、必要としているサービスがあれば対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員と一緒に家事等を行いながら、できることを増やしたり、できそうな事を見出しチャレンジする中で、職員が学んだり、助けられたりと支えあう関係を築いている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を伝え相談している。一緒に行事に参加してもらうことで本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は家族・本人から情報をしっかりと得て、本人が大切にしてきた馴染みの人とのよりよい関係が途切れないように支援している。来訪されたときは、馴染みの人、家族、職員間で情報の共有に努めている。	個々の生活暦を把握し家族や友人など大切な人との交流が継続できるように支援している。又来訪時には利用者と共に事業所内でゆっくり寛げるよう配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が良好に保たれるように職員が適度に介入しながら関わりを持てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても家族が訪問してくれることがあったり、年賀状のやり取りや利用者の移行先に訪ねることもある。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話の中から本人の話を聴き本人の意向を汲み取るよう努めている。困難な場合は家族と話し合い本人の意向に添えるよう本人本位に検討している。	日頃の会話や表情、動作などから本人の希望を把握し、個人記録や家族からも情報を得、本人の意向に添えるよう検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力も得ながら一人ひとりの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりのいつもの状態を把握し、変化があった時には緊急案件として検討できるように努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に職員も担当しながら介護計画を作成している。	本人、家族の希望を尊重し、計画作成担当者を中心に職員、関係者、医師と話し合い介護計画を作成している。1ヶ月ごとにモニタリングを行い現状に即して作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有し、介護計画に活かしているが、記録の記入の仕方については職員間で統一した記入ができるよう見直している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2ユニット間の交流で擬似的な近所づきあいができる。併設している認知症対応型デイサービスに毎日1～2名づつ参加し、地域の高齢者と交流できる環境にある。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防、生活保護職員、生活支援員と協力しながら支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人、家族の希望を大切に、入居前からのかかりつけ医を継続している利用者が多く、適切な医療を受けられるように医療機関と連携し支援している。	本人、家族の希望するかかりつけ医への連絡、通院を支援している。提携医の往診が月2回あり訪問看護センター看護師と共に健康管理を行い緊急時には連絡できる体制である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1度看護師が訪問。職員は一人ひとりの利用者の1週間の情報や気づきを書きまとめ、看護師に伝えて相談している。相談は365日24時間いつでもできる状況にある。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報交換し、早期退院に向け連携をしている。退院後も往診、訪問看護、訪問リハビリと協力連携の体制を整えている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における指針は明文化されている。職員間や家族、医療機関と繰り返し話し合い方針を共有するよう努めている。	早期に家族、職員、医師、看護師と話し合い方針を共有し、「終末期における指針」を明文化している。変化時には関係者と連絡をとり、できるだけの支援をしている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命・既存のAED使用の講習を受けており、マニュアルも整備されている。繰り返し訓練をし実践力を身に付けたい。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議開催時に地域住民の代表者と災害対策について話し合う機会をもっている。近隣住民の方々と茶話会を開催。災害対策についての話し合いをもち協力を得られる状況にある。	年2回消防署協力のもと避難訓練を実施している。スプリンクラー、緊急通報装置、消火器が設置され、近隣住民とは緊急時連絡先の名前登録の協力を得ているが、訓練への参加は今後に待たれている。	運営推進会議において災害対策について地域代表や利用者家族、職員と話し合いを重ねて実績をあげているが、避難訓練については近隣住民の参加がないので更に地域の人々の協力を期待したい。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーに配慮した支援ができるように努めている。守秘義務については、職員は周知している。	人格を尊重し誇りを傷つけることのない接遇をしている。個人情報保護のマニュアルを整え書類管理は適切である。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表せる事が生活のあらゆる場面にあることを職員が常に意識して支援している。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	突発的な出来事が生じても、当日の業務内容を職員間で相談、変更しながら一人ひとりの生活のペースを大切にすることに努めている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好み、その人らしい身だしなみができるように支援している。理美容室は馴染みの店を利用している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り買い物や後方付けと一緒にこなっている。職員も利用者と同じ食事を一緒に摂りながら、食べこぼし、食べ方の混乱に対するサポートをさりげなく行っている。	献立は利用者の希望を取り入れ、できる範囲で買い物や後片付けを手伝っている。職員は食事を共にし、さりげなくサポートし食事が楽しめるよう支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好、適量を把握している。水分量はチェック表で確認しながら確保に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行なっている。口腔状態が悪化した時は訪問歯科と連携し清潔時に努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握できるようチェック板を活用。尿意・便意が喪失しても出来る限りトイレで排泄できるように声かけや誘導を行なっている。	個々の排泄チェック表を参考にし動作や表情から排泄パターンを把握し羞恥心に配慮しながら誘導し、トイレでの自立排泄を支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、プルーン果実等便秘予防の食品を取り入れているが、やむをえずかかりつけ医と相談し下剤使用している利用者も多い。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員のローテーション等で困難な時間帯もあるが、希望を確認しながら行っている。	利用者の希望、タイミング、体調に合わせて入浴できるよう努めている。浴室の清潔、安全、職員の声掛けに配慮しゆっくり入浴を楽しむことができるよう行なっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、1日の生活リズムづくりを通じた安眠策をとっている。日中でも体調により休息、臥床を促しながら支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が使用する薬の副作用については、職員全員が周知しているか不安がある。職員各自が理解できるよう努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが楽しみ事や出番をみいさせるよう、場面づくり等の支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	さくらの季節に車でお花見外出。家族の協力での外出や職員と買い物や散歩に出かけられるように支援しているが、一部の人のみしか行えていない。	日常的には近隣散歩、菜園作り、買い物等できるだけ戸外に出るよう努めている。季節や個々の身体状況に応じてバス利用のお花見外出も実施している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの状態に応じて支援している。金銭管理が難しい利用者は金庫で管理をし希望があればその都度使えるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の支援をしている。親しい人から季節のたよりが届いた時には、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレなどがいづれも家庭的な雰囲気を有している。季節の花を飾り季節感をとりいれるようにしている。	居間は明るく絵画や季節の行事写真、観葉植物を飾り家庭的な雰囲気である。トイレはユニット毎に4箇所あり、廊下、玄関など広く安全に対する配慮がなされている。温湿度、採光、換気も適切で静かな環境が保持され良質な居住空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の状況に合わせて居場所づくりを工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を置いており、一人ひとりの好みを活かしている。	居室は広い収納スペースがあり整頓されている。使い慣れた家具や仏壇を持ち込み、家族の写真を飾り、好みの縫いぐるみを置くなど、その人らしい居心地の良い部屋となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間トイレ、居室にスポットライトを当てて迷いなく安全に行き来できるように工夫。電気のスイッチは大きく分かりやすく、押しやすいようになっている。廊下の手摺りは安全に歩行できるように配慮されている。		